

経営意向調査に基づくマッチング活動 ～担い手への農地集積に向けて～



仙台市農業委員会では、経営意向調査で、「農業を辞めたい」あるいは「規模を縮小したい」と回答した1,085戸の農家に対し、昨年8月から6カ月間をかけ戸別訪問を行った。農業委員と農地利用最適化推進委員が、農地の賃貸借等のマッチングにつなげるため、対象農家から希望や条件等、具体的な聞き取りを行った。

コロナ禍での密を避け、屋外での聞き取りなど工夫をしての訪問活動。直接話すことで、農家の考えをより深く伺うことができ、農地中間管理事業による農地の貸し借りや売買が成立するなど一定の成果が上がった。

一方で、耕作条件の悪い農地は借り手が見つからない、訪問先が勤め人等で会えないなど課題も残った。

今後は、集落単位で懇談会等を開催し、「人・農地プランの実質化」に向け、地域の将来を見据えていく。

一度耕作されなくなった農地を復元することは難しい。委員一同、改めて担い手へすみやかにマッチングすることの必要性を実感し、活動の継続に意欲を見せる。